



宮之城町議会議長

酒 匂 守

新年明けましておめでとうございます。

平成17年の年頭にあたり、謹んで新春のごあいさつを申し上げます。

旧年中は町政の推進と町議会活動に対し、温かいご支援とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

昨年は、特に、記念すべき宮之城町50周年の節目を迎え、多くの皆様のご参加をいただき、記念式典や記念講演など各種の記念事業が盛大に行われ、合併を前にして宮之城町として有終の美を飾ることができました。

また、3町合併協議で明け暮れた1年でもありましたが、議会としても新町のよりよいまちづくりをめざ

し、合併問題について調査研究する特別委員会を、昨年は19回開催し、合併協定項目等の詳細にわたって、慎重に調査をいたしました。3町の調整事項では、本町議会の意見が反映されない部分もありましたが、合併の趣旨を踏まえつつ、将来に禍根を残すことがないように、新町での課題として取り組むよう要請したところであります。

いよいよ本年3月22日には、宮之城町・鶴田町・薩摩町の3町合併による新「さつま町」が誕生いたします。誠に大きな変革の年であり、新



今年は酉年 ～酉にちなんだお話～

平成17年は酉年です。十二支の動物の中で、唯一の鳥類です。干支の「酉」は「ニワトリ」のこと。鳥というとニワトリ（鶏）を思い浮かべますが、ニワトリは人間と最もなじみの深い鳥といえます。

◆酉（鳥）に関することわざ・慣用句

「鶏口となるも牛後となるなかれ」は、鶏を小さな組織、牛を大きな組織にたとえて、大きな組織の属員になるよりは、小さな組織でもその頭となることのほうがよいの意味。小さくとも勇ましい鶏の姿が思い浮かびます。

「空飛ぶ鳥も落とす（飛ぶ鳥を落とす）」は、空を飛んでいる鳥も落とすほど威力があるさまのたとえ。打ち落とされる鳥といえば「一石二鳥」。一つの石を投げて二羽の鳥を同時に打ち落とす意から、一つの行為によって同時に二つの利益を得ることの意味。「閑古鳥が鳴く」は、貧しくてびびびしているさま。また、商売などがはやらないさまをいいます。

閑古鳥を追い払い、今年こそ本格的な景気回復でたくさんのご利益を、といたいものです。



しい歴史の幕開けでもあります。国・地方の財政は極めて厳しい状況にありますが、新たなまちづくりに向けた「飛躍の年」として、合併の効果を最大限に生かし、新町発展と町民福祉の向上のため、町執行部と議会が町政推進の大きな両輪となつて、常に前進をめざし、努力してまいります。

今後とも、町議会に対する更なるご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げますとともに、本年が皆様にとって幸せな1年でありますようご祈念申し上げ、新年のあいさついたします。